大学との連携を追い風に特別支援教育体制のさらなる充実を
～ティーチングアシスタント制度の導入～

校　長　吉川　文章

今年度、大きな取組の一つに近隣大学との連携があります。具体的な内容としては、

○大東文化大学、武蔵野大学を中心として、教員養成系の大学との連携を結ぶ
○小・中学校の教員志望の学生スタッフを、年間を通じて派遣してもらう
○特別支援の必要のある児童の学習・生活への個別支援を行う
○１０名程度の学生の配置を考えている　　などです。

これを、**「ティーチングアシスタント（TA）制度」**と名付け、今後、拡充を図っていく予定です。
・学校にとっては、**個別に支援の必要のある児童への対応がよりきめ細やかになる**
・大学にとっては、**個別支援に配慮した一斉指導の方法を現場で学ばせることができる**
という、双方にメリットとなるいわゆる**「ウイン・ウインの関係」**ができればと期待しています。

特に大東文化大学とは交流が深く、昨年度から本校の国語科の研究講師でもある山中吾郎先生のゼミの学生さんを「教員の一日体験」として受け入れています。

運動会の際に、学生スタッフが入っていることにお気づきになられた方もおられると思います。実は、今月の９月１３日（水）に受け入れをする学生が、先駆けでボランティアとして参加してくれました。さらには、夏休みの水泳指導でも数名の学生が補助員として入ってくれました。

現在、以下のポスター（概要）を連携する大学の掲示板に貼っていただき周知していただいています。

練馬区立北町西小学校で、特別支援教育を学んでみませんか（ティーチングアシスタント大募集）

通常の学級の各クラス２、３名はいると言われる発達に課題のある児童

一斉授業で学習が身に付きにくい　　席に座っていられない　　すぐ他の子に手を出す

全てがその子の「私を見て」のサインです。頭ごなしに叱ると、その場はいったんおさまりますが、解決には到りません。また、宿題を多く出したり、残り勉強をしても、かえって勉強嫌いになってしまう場合もあります。その子の発達に照らし合わせた支援が必要です。

北西小では、大東文化大学、武蔵野大学などと連携を図り、小学校の教員を目指す大学生の３・４年生を対象に、特別支援教育の指導法を現場で学んで欲しいと考えています。

ボランティアなので謝礼も交通費もありません。給食費はいただきます。

保険加入・健康診断（予防接種）も各自負担になります。

初めて学級をもった時に、発達の偏りのある子の支援が適切にできるかどうかは、１年間の学級運営を左右するほど大切なことです。

※ 大東文化大学の学生は、昨年度から、全校遠足を皮切りに、行事を中心にスタッフとして貢献をしてくれています。今後、さらには、周年行事や音楽会、就学時健康診断にもスタッフとして加わるとともに通常の授業でもティーチングアシスタントとして関わってもらう予定です。